

2008 年度

科目名 教育実習指導（小学校）	対象学科・学年 教育教職3回生	担当者 三宅 奎介
授業テーマ 小学校教育実習の意義理解と教職への一体感の形成について		
授業の概要と目標 教育実習は大学における教育職員養成過程の基礎として、小学校の教育現場に臨み、直接的・体験的に実施する課業である。本講座では教育実習を事前・実施・事後のまとまりに位置づけ、教員を志すものとして自らの生き方と重ね合わせ、その資質能力を高めるとともに教職への一体感を培う。従って、教育実習の事前授業では「教育実習の意義・内容・方法」を、事後の授業では「体験に基づく教職観」について研究し、その修得を図る。		
評価方法 ①学習カード ②小論文 ③教育実習終了報告書 ④教育実習自己評価票		
テキスト 子どもがつながる学級集団づくり入門	著者 新保真紀子	出版社 明治図書
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 第1講 教職課程・教育実習の意義を理解する。 第2講 実地研究の観点や学習指導案作成と授業指導の心得等々について理解を深める。 実習手続きの指導（教務課） 第3講 教育実習の場である小学校の学校運営について知り、実地研修の観点について理解する。 第4講 人権教育の課題と指導のあり方について理解を深める。 第5講 実習計画・資料をもとに、教育活動と実習生の実務について知る。 ＊ 実習校への挨拶・打ち合わせ訪問(各自) ※後期実習生一ヶ月前 ＊ 小学校教育実習（専任教員による訪問指導） 第6講 実地研究のまとめ・発表と講評指導。※ 実習終了報告書の提示 第7講 現在の学校の課題とその対策について考察する。 第8講 実践アクセス講義 新任の先輩教員から学ぶ（ゲストティーチャー講和） 第9講 改革が進行する学校教育と期待される教師像について考察する。 第10講 自らの教職志向について考える。「教育実習指導」学習の自己評価		